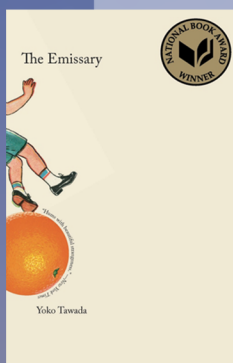


海を越える

日時：2021年5月19日（水）
18:00-20:00 Zoomウェビナー
でのオンライン開催（一般公開）



東日本大震災と原子力発電所の危機的な事故から今年で10年となります。多和田葉子さんはベルリンでの反原発デモでもスピーチによって原発廃止を訴えています。それとともにさまざまな作品のなかにも、そのメッセージが織り込まれています。とりわけ2014年に発表された『献灯使』は、ある大震災後の日本の近未来の姿を不気味に描き出しています。この「ワークショップ&朗読会」では、東京外国語大学の学生たちを中心として、英語、ドイツ語、チェコ語、ポルトガル語（ブラジル）、ロシア語、韓国語、中国語（台湾）、タイ語、トルコ語の翻訳（対訳付き）によって、『献灯使』のメッセージをまさに海を越えて浮かび上がらせてゆきます。この言葉遊びに満ちた作品は、翻訳のなかでどのような姿をあらたにとることになるのでしょうか。

- ・使用言語：日本語（その他、9ヶ国語・対訳付き）
- ・参加費：無料

事前申し込みが必要です。

（定員500名。本学学生優先。先着受付順。定員に達した場合参加をお断りさせていただきます。）

参加ご希望の方は、5月10日（月）までに、以下の二次元バーコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。本学ホームページからも登録できます。

URL: http://www.tufs.ac.jp/event/2021/210416_1.html

問い合わせ先：総合文化研究所 (tufs422ics@tufs.ac.jp)

司会：山口裕之（東京外国語大学、ドイツ文学・文化、表象文化論）

主催：東京外国語大学 総合文化研究所
共催：東京外国語大学 言語文化学部



多和田葉子

小説家・詩人。日本語とドイツ語で執筆活動を行う。ベルリン在住。日本では芥川賞、泉鏡花文学賞、伊藤整文学賞、谷崎潤一郎賞、野間文芸賞、読売文学賞、朝日賞、紫綬褒章他多数。ドイツでは、シャミッソー文学賞、ゲーテ・メダル、クライスト賞受賞。また、2018年『献灯使』で全米図書賞翻訳部門（翻訳：マーガレット満谷）受賞。『犬婿入り』『容疑者の夜行列車』『雪の練習生』『地球にちりばめられて』『星に仄めかされて』他作品多数。



翻訳のなかで声となる言葉たち